「この世の中に誰かがやらなければならないことがある時、僕は、その誰かになりたい」

令和5年6月12日

中田厚仁さんをご存じでしょうか？国連選挙監視ボランティアとしてカンボジアの総選挙の手伝いをしていた1993年に銃撃によって命を奪われた若者のことを。1970年代のポルポト政権下で170万人を超える大量虐殺のあったカンボジア。ポルポト政権後も政情不安が続いたカンボジア。そのカンボジアで民主的な総選挙を行うことになり、選挙ボランティアとして中田厚仁さんはコンポントム州プラサット郡に赴きます。この地はカンボジアの中でも、民主的な選挙を行うことが難しいといわれていた地域です。

中田さんは、精力的に民主的な選挙のために尽力しますが、その活動を快く思っていない一派によって総選挙目前に射殺されました。中田さんの四十九日の法要の日に行われた総選挙。選挙が厳しいといわれていたプラサット郡において、投票率99.9%という奇跡的な数字をあげました。（ちなみに2022年9月の沖縄県知事選挙の投票率57.92%. 過去二番目の低さを記録）

プラサット郡では、中田さんの業績を称え、厚仁（あつひと）の名をとり、アツ小学校・中学校が設立され、また、石碑や歌も作られたそうです。

モニュメント版

アツ小学校・中学校の正門

彼の活動は、彼の失った命によって、日本中に知られましたが、彼の活動は今でもボランティアや国際貢献を志す日本の多くの若者に影響を与えています。また、彼を有名にしたのは、タイトルにある「この世の中に誰かがやらなければならないことがある時、僕は、その誰かになりたい。」の言葉です。中田さんは、カンボジアでの活動中も、知人によくその言葉を語っていたそうです。私が読んだ雑誌では、ボランティアとして、政情不安のあるカンボジアに行くと両親に言った時、両親は強く反対をしたそうです。安全を保障できない所に息子から行かせてくれと頼まれても親であれば反対するでしょう。しかし、中田さんは、この言葉を説いて両親を説得したのです。　中田さんの命をかけたメッセージは、子ども達にも届くはずです。学級での当番活動や係活動でも説いて聞かせることのできる言葉ですが、私は担任の頃、掃除時間後に片付けられていない汚い雑巾がそのままであったり、面倒な作業が残っていたり、引き受け手がいない活動を誰かに決める時、この言葉を使って指導しました。誰かが片付けなければ綺麗にならない雑巾。面倒だからという理由で誰もやらなかったら終わらない作業。なり手が誰もいなかったら計画が進まない時など、中田さんの言葉は、「よし自分が…。」という思いを持たせることができる力を持った言葉です。小学生には、国際的なボランティアをすることは不可能に近いです。ですが、自分たちが置かれている場所や状況で、その気持ちにさせる中田さんの言葉を使って与東っ子の一人でも多くの子が「その誰かになりたい。」と思うよう先生方のご指導お願いします。享年25歳。今でも、心の片隅に置いておきたい言葉として私の中に中田さんの言葉は生き続けています。明日の朝会でお話します。